

# 湯島聖堂(文京区)

ここは **史跡 湯島聖堂**  
YUSHIMA SEI DO

●所在地 東京都文京区  
湯島一丁目4番25号

●敷地面積 13,915㎡

【孔子廟、神農廟と昌平坂学問所跡】  
SHRINE OF CONFUCIUS, SHRINE OF SHINNO  
AND THE SITE OF SHOHEIZAKA COLLEGE

- 国の史跡指定 1922年(大正11年)3月8日
- 所管 文化庁・東京都教育委員会
- 管理団体 財団法人斯文会(しぶんかい)
- 公開時間 木曜定休除 9:30~5:00(冬は4:00)

**入場は無料です。**

●湯島聖堂と孔子 「孔子」は、2,500年ほど前、中国の魯の国(今の山東省曲阜市)昌平郷に生まれた人。その教え「儒教」は東洋の人々に大きな影響を与えました。儒学に傾倒した徳川五代将軍綱吉は、1690年(元禄3年)この地に「湯島聖堂」を創建、孔子を祀る「大成殿」や「学舎」を建て自らも「論語」の講釈を行うなど学問を奨励しました。1990年(平成2年)聖堂は創建300年を迎えています。

●昌平坂学問所跡 1797年(寛政9年)幕府は学舎の敷地を拡げ、建物も改築し、孔子の生まれた地名をとって「昌平坂学問所」(昌平倭ともい)を開きました。学問所は、明治維新(1868年)に至るまで70年間、官立の大学として江戸時代の文教センターの役割を果たしました。

●近代教育発祥の地 明治維新により聖堂は新政府の所管となり、明治4年に文部省が置かれたほか、国立博物館(今の東京上野)、東京師範学校(今の筑波大学)、東京女子師範学校(今のお茶の水女子大学)などが置かれ、聖堂は近代教育発祥の地となったのです。

●現在の湯島聖堂 もとの聖堂は、4回もの江戸大火にあつて焼失、再建を繰り返し、さらに大正12年間関東大震災でも焼失しました。今の建物は1935年(昭和10年)鉄筋コンクリート造りで再建したものです。ただし、入徳門は1704年(宝永元年)に建てられたものがそのまま残っており、貴重な文化財となっています。

●A B C Dの4門は毎日開かれどなたでも見学できます。(大成殿の内部公開は土・日・祝)。  
●都心に稀な静かな環境、緑に包まれた石だみや石段、唐風の門・大成殿、江戸が今に残っています。

これは湯島聖堂大成殿(孔子廟)/背後から見たところ



左手から見た大成殿/右手前は西回廊



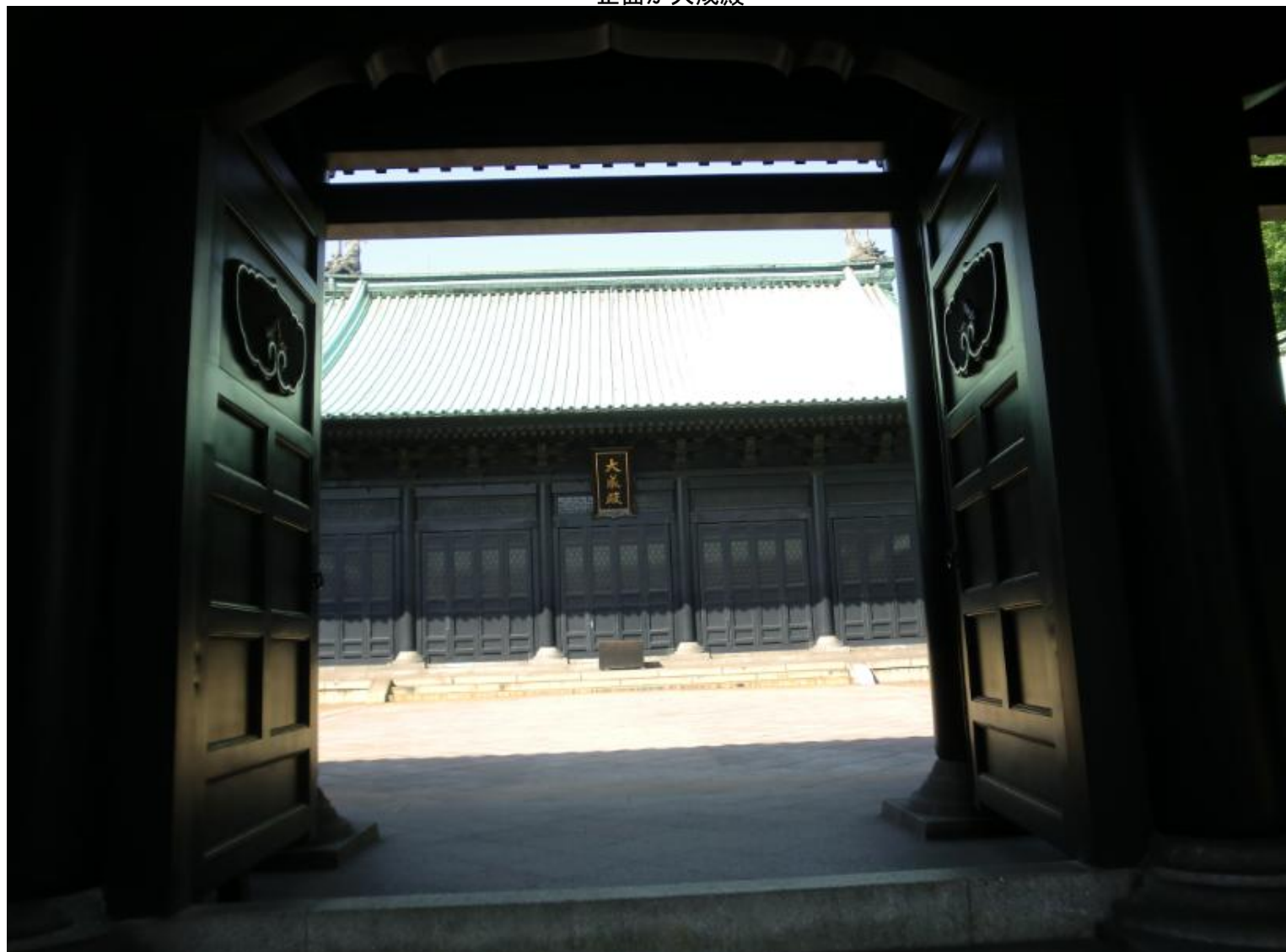
西回廊(左)と杏壇門(右)



杏壇門



正面が大成殿



大成殿(昭和10年再建/設計は伊東忠太/RC造)







杏壇門を見る



東回廊天井



東回廊外壁



杏壇門外壁



杏壇門より水屋を見る



水屋(木造)



関東大震災ではこの水屋と入徳門が焼け残った  
(この水屋の改修は松浦愛一郎・一・弘二の三人が携わったという)

入徳門(1704年建立)



昭和9年に大林組の下請けで松井組(工事担当は松浦愛一郎)が改修した(木造)







平成5年に大林組によりリニューアルされている



















聖橋から見た入徳門



アップで見たところ



仰高門へ歩く



土塀も三人が携わったという

孔子銅像



仰高門(昭和10年再建)



大林組の下請けで松井組が請負い、松浦愛一郎・一・弘二の三人が担当したという(松浦一が工事主任であり、初めてのRC造の建物であった)  
聖堂の敷地内に仮設小屋を造って寝泊まりし再建に尽力したという





























聖橋から見た仰高門



アップで見たところ



右は斯文会館



斯文(しぶん)会館















参考ホームページ

<http://www.seido.or.jp/whole.html>

<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%B9%AF%E5%B3%B6%E8%81%96%E5%A0%82>

<http://www.kmine.sakura.ne.jp/tokyo/jinjabukaku/yushimaseidou/yushimaseidou.htm>



公益財団法人斯文会ホームページより